

興味・関心の芽を育てる

安城市立桜林小学校

神谷 佳孝

「なんか、想像しただけでわくわくしちゃうな。」

校外学習の事前指導をしていたとき、一人の子どもがにこにこしながらつぶやいた。子どもは素直な気持ちで表れた瞬間である。

校外学習は、市内の公園に出かけた。公園に着くとすぐに、

「あつ、どんぐりがたくさんあった。」と、子どもたちの元気な声が聞こえた。公園でのネイチャーゲームでは、秋の自然に触れ、グループの友達と仲良く笑顔で活動していた。

その後、生活科の時間に、校外学習で拾ったどんぐりで、どんぐりごまを制作した。そして、長く回るごまをつくらうと課題を提示した。子どもたちは、どんぐりの種類やごまの軸の長さを変えて、ごまを作り、繰り返し試していた。一人一人が真剣に考えて活動した。ごまが回る様子をじつと見ながら、
「小さいどんぐりだと回らないな。」
とつぶやく子や
「やった、前よりも長く回った。」

と喜びを爆発させる子もいた。

あるとき、一人の子が、うまくごまが回せずしょんぼりしていた。アドバイスしてくれる子を募ったところ、次々と友

達からアドバイスが出てきた。

「手をひねりながら回すといいよ。」

「力を抜いて回すといいよ。」

「両手で勢いをつけるといいよ。」

アドバイスをした子どもたちは、黒板の前に出て実演した。視覚的に分かりやすいように、タブレット端末を活用し、ごまを回す様子をテレビ画面に映し出した。テレビ画面にごまが勢いよく回ると、子どもたちから歓声があがった。

「あつ、なるほど。そうやってやるのか。」と、子どもたちが次々につぶやいた。うまく回せず困っていた子どもも、目をきらきら輝かせて、

「今の回し方でやってみるよ。」

と熱心にごまを回し続けた。

「〇〇くんが言ったように、ひねりながら回したら、前より長く回せました。」

授業の最後には、晴れ晴れした笑顔で振り返りを発表していた。

子どもたちは、常に興味・関心をもち、素直な気持ちで授業に臨んでいる。授業を通して、少しずつ成長していく子どもの姿は、何よりも励みになる。今後も一人一人の気持ちを大切にし、子どもたちが成長できるような創意工夫のある授業を実践して、

子どもたちの興味・関心の芽を育てていきたい。

